

2006年福徳岡ノ場の航空磁気調査結果

The Results of Aeromagnetic Survey in Fukutoku-Okanoba in 2006

海上保安庁海洋情報部

Hydrographic and Oceanographic Department, Japan Coast Guard

海上保安庁海洋情報部では、2006年3月に実施した福徳岡ノ場の航空磁気測量の結果について報告する。福徳岡ノ場の航空磁気測量は1999年9月にも高度487mで実施しており、今回の成果と比較した。同海域では2005年7月小規模な海底噴火があり、最近やや活発な活動状況である。福徳岡ノ場は比較的平坦な負の地磁気全磁力異常分布を示し、地形的な高まりに対応した磁気異常がないことから低磁化強度域であることは、これまでの観測から判明している。また、この区域の地下では熱消磁の可能性が考えられる。

2006年の測量は飛行高度約310m、測線は南北に間隔0.5マイルとし、測位はGPS測位とした。比較のため2006年の成果を310mから487mへ上方接続し測量高度を一定として用いた。

福徳岡ノ場付近の地磁気全磁力異常の分布には大きな変化は認められなかった(図1、図2)。

2006年と1999年の地磁気全磁力異常値をメッシュ化し残差(図3)による比較を行った結果、地磁気全磁力値に特段の変化は認められなかった。

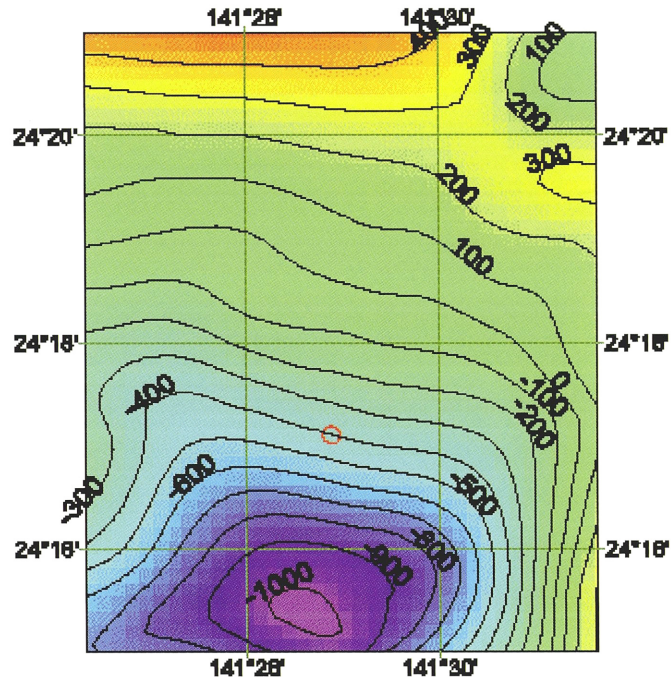


図1 2006年3月地磁気全磁力異常図

Fig. 1 Geomagnetic anomaly map in 2006.

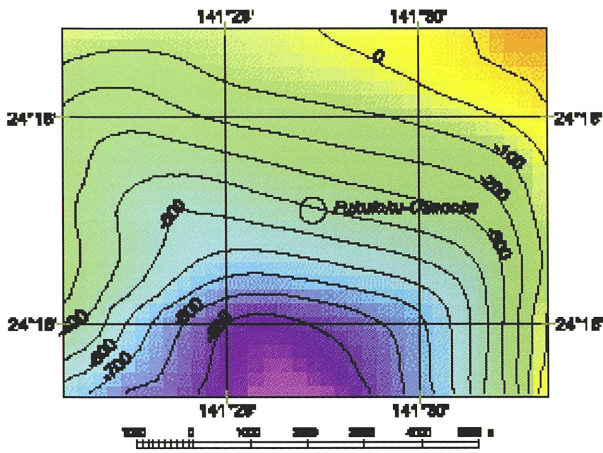


図2 1999年9月地磁気全磁力異常図

Fig. 2 Geomagnetic anomaly map in 1999.

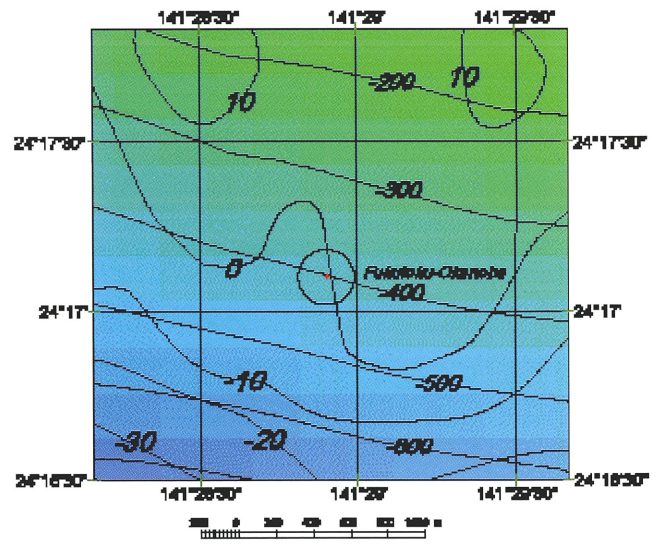


図3 1999年と2006年の残差

Fig. 3 The difference of 1999 and 2006.